

(23) 酒解神社 (さかとけじんじゃ)

住所：三重県伊賀市坂下492

TEL：0595-46-1281

参拝日：2013年5月22日、2014年5月17日、2014年9月27日

主祭神：木花咲夜比賣命

祭神：健速須佐之男命、天兒屋根命、大山祇命、市杵島毘賣命、正哉吾勝々速日天忍耳命、天之穗日命、天津日子根命、活津日子根命、熊野久須毘命、多紀理毘賣命、多紀都比賣命、武甕槌命、大日靈貴命、経津主命、大物主命、菅原道真、大稻輿命、品陀和氣尊、大鷦鷯尊、火之迦具土命、天明玉命、彌都波能賣神



鳥居と手水舎



拝殿と狛犬



本殿

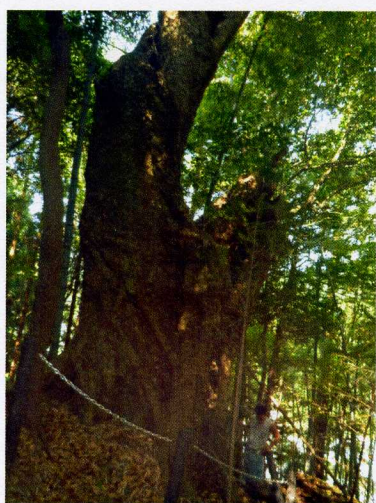
神明造りの石の鳥居の脇には酒解神社の石柱と手水舎それと石灯籠が数基あり、小川にかかる橋を渡ると、二つ目の鳥居がある。阿吽の石の狛犬に守られた拝殿には、木花咲夜比賣命始め23柱が書かれた扁額や樹齢300年の御神木用材檜の断面板が置かれていた。本殿は神明造りで内削りの千木と鯉木が3本あった。境内の石碑には「明治40年3月合祀令により川北村社、杉山神社、廣瀬村社、弥栄神社、奥馬野村社、巖島神社、中馬野村社、八柱神社のそれぞれの神々を酒解神社に合祀した。そのたび合祀百周年記念事業としてご本殿造営竣工しました。本殿遷座祭 平成14年11月18日、竣功奉祝祭 平成14年11月24日」と合祀に関する説明があった。境内案内板によると「当神社は、伊賀の古地誌である「伊水温故」によると、「酒解大明神坂下村旧名酒解村馬野郷ノ内」と記録があり、由緒ある古社である。祭神は、「木花咲夜比賣命」（瓊瓊杵尊の後）で山の神、また酒を司る神で、造りの神であることから酒造の神（水が清いため）として地域の人々に信仰されています。」とある。

コノハナサクヤヒメの父である大山祇神は山の神の総元締めであり、海にも神徳を有する神であるが、また、娘のコノハナサクヤヒメがニニギとの間にホデミ（山幸彦）を生んだとき大変喜んで、アメノタムケ酒を造り、天地の神々に振る舞ったことから酒造の祖神としても祀られている。よって、オオヤマツミは酒解神、コノハナサクヤヒメは酒解子神と呼ばれているが、当神社の主祭神はコノハナサクヤヒメが祀られている。

さらに、案内板にはアカガシの巨木について紹介されている。「神社の裏山にはアカガシが多く



木花咲夜比賣命



アカガシの巨木

生息し、中でも胸高周囲5メートルを超える巨木が3本あり、樹齢は推定で700年と言われ、アカガシの巨木では県下一とされています。このアカガシの巨木は、健全な母胎の象徴、子孫繁栄を祈る子授け安全の御神木とされ、

昔から地域の人々に親しまれ遠くからのお参りも多い」と記されている。たしかに裏山に行くと鎖に囲われたアカガシの巨木と同じく鎖に囲われた巨大な株があった。しかしながら3本目の巨木は見つけることができなかった。裏山は沢山の竹が繁茂もしていたが、その他スギ、キンモクセイ、ギンモクセイ、イチヨウ、アカガシ、ヒノキ、イヌマキ、シダレウメ、ウメモドキ、ヒラドツツジ、ミカン、ナンテン、ヤブニッケイ、モミジ、モウソウチク、ヤブツバキ、ホオノキ、チャノキ、ヒサカキ、シュロなどが観察された。

祭祀は例祭が12月3日で獅子舞郷土芸能として古くから伝承され悪魔払、御獅子厄除御獅子として各戸では正月舞って貰うことを乞うたもので今日では例大祭の神事として行なわれている。

宝物等は棟札（寛永六年・寛文二年・元禄一五年・元文六年、他五枚）、石造灯籠（宝永五年・嘉永二年）、手水鉢（石製、明和年）がある。

由 緒：

創祀は不詳であるが、当社鎮座地なる坂下は酒解神を祀れることの表徴より起りしものなりといわれる。旧『三重縣神社誌』によると「大友皇子が伊勢に行幸の途次この地に至り福持全司の女某より酒を献ぜられた、皇子は壽賞して女を傍に待らした。女は皇子に「父の日頃望んでいるわが里の酒解神に官位をお授け下さい」と願ったところ、皇子は正一位酒解大明神と授けられた云々」と、又『直指抄』によれば冷泉天皇の時に正二位を授けられたも伝えられている。明治40年及び41年に八柱神社など16社を合祀した。